

全てのいのちが共生する社会の構築 (生物多様性の保全)

2020年度の目標及び現状

- 生物多様性の府民認知度 目標=70% 現状=約36.5%
- 活動する府民 目標=約9万人(30%増) 現状=約19.6万人
- 保安林等の生物多様性保全に資する指定地域 目標=新たに2,000ha指定 現状=1,711ha

目標達成に向けた取組み

(1) 生物多様性の重要性の理解促進

- 大阪府レッドリストを改訂 (希少種1,452種、生物多様性ホットスポット(希少な野生動植物が生息・成育し、種の多様性が高い地域)55ヶ所の選定)
- 生物多様性研修用プログラムの作成



(2) 生物多様性に配慮した行動促進

- アドプトフォレスト、共生の森づくり、多奈川ビオトープなど、活動の場・仕組みづくり
- 天然記念物の淡水魚イタセンパラの野生復帰の試み(観察会、出前授業、市民ネットワークの野生復帰支援取組み)



イタセンパラの野生復帰の取組み

(3) 府民と連携したモニタリング体制の構築

- 大阪生物多様性保全ネットワーク (大学、研究機関、活動団体、行政、府民で構成。情報共有・一元化、情報発信、普及啓発)

(4) 生物多様性保全に資する地域指定の拡大

緑地環境保全地域、保安林、鳥獣保護区、府立自然公園の指定

(5) エコロジカルネットワークの構築推進

- 企業との「おおさか生物多様性パートナー協定」の締結 (大学、企業、試験研究機関、大阪府による協定)
 - パナソニック(株)エコソリューションズ社 (活動場所: 本社はんえいのひろばビオトープ(門真市))
 - パナホーム(株) (活動場所: 本社つながりのひろばビオトープ(豊中市))
 - 南海電気鉄道(株) (活動場所: いきいきパークみさきビオトープ(岬町))



• チョウのまちプロジェクト

(府立大学、大仙公園、大泉緑地を結ぶ地区内小学校で環境学習実施)

魅力と活力ある快適な地域づくりの推進

みどりと水辺の保全と創造

- 「みどりの大阪推進計画」 目標年度: 2025年度
 目標 緑地割合 約4割以上(現状 約4割)
 市街化区域内緑被率 20%(現状 14%)
- 基本戦略1: 自然環境の保全・再生 (放置森林対策行動計画、遊休農地対策、「生駒山系花屏風」構想等)
- 基本戦略2: みどりの風を感じるネットワーク形成 (みどりの風促進区域の緑化促進等)
- 基本戦略3: 街の中に多様なみどりを創出 (府有施設等緑化推進計画、ネーミングライツ方式によるシンボル緑化等)
- 基本戦略4: みどりの行動の推進 (公立小学校芝生化、花いっぱいプロジェクト等)



みどりの風促進区域の指定の概念図

魅力ある景観の形成

- 適切な規制、誘導による景観づくり
- 府民、事業者とともにすすめる景観づくり
- 水都大阪推進に向けた取組み
- 農業、農空間をまもり育てる「オアシス構想」の推進



大阪まちなみ百景 千里インターチェンジ周辺のまちなみ

歴史的・文化的環境の形成

- 文化財の保存、管理事業
- 百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録の取組み



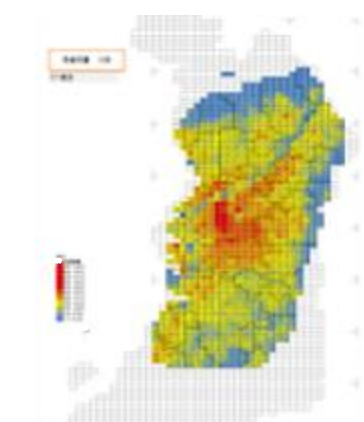
百舌鳥・古市古墳群

騒音・振動の防止

目標(道路交通騒音)2020年に環境保全目標達成率95%以上(現状93.6%)
 沿道環境対策(遮音壁、低騒音舗装等)、交通流対策を推進

ヒートアイランド現象の緩和

- 「大阪府ヒートアイランド対策推進計画」
 目標 2025年までに住宅地域における熱帯夜数*を2000年より3割減
 (*温暖化による影響を除いて最低気温25℃以上となる日数)
 クールスポットを創出し夏の日中の熱環境改善
- 主な取組み
- 温暖化防止条例に基づく人工排熱抑制(対象757事業者)
 - ヒートアイランド対策技術の普及促進(対策技術認定、アイデアコンペ開催、大阪クールスポット100選の選定)
 - ヒートアイランド対策効果シミュレーションモデルの開発



ヒートアイランド対策効果シミュレーション結果の図示例